

統合新病院整備事業における ユニバーサルデザインワークショップについて ～基本設計段階の実施報告～

R8.8_青森県 総合政策部 統合新病院開設準備室

目的と背景

バリアフリー法への適合にとどまらず、障がいのある方や高齢者等の当事者視点を取り入れた「利用しやすい施設」の実現

- 多くの人が利用する統合新病院は「建築物移動等円滑化基準」への適合が必須
- 国交省は令和7年5月に「建築プロジェクトの当事者参画ガイドライン」を策定し、当事者参加を推進

期待される効果

- 満足度の向上：実際の利用者に即した使い勝手の良い環境整備
- 理解と信頼：整備プロセスを公開・共有することによる理解の促進と信頼の醸成
- 手戻りの防止：設計段階での課題解決による、完成後の改修リスク低減

ワークショップ参画メンバー

- 障がい者・高齢者・介護・子育て団体から推薦いただき、利用者の視点でワークショップに参画（15団体40名）。
- ファシリテーターとして、松田雄二教授（東京大学大学院工学系研究科建築学専攻）にご協力いただいた。

分野	団体名	分野	団体名
身体障がい	青森県身体障害者福祉協会	発達障がい	青森県自閉症協会
聴覚障がい	青森県ろうあ協会	聴覚障がい	青森県難聴者・中途失聴者協会
視覚障がい	青森県視覚障害者福祉会	知的障がい	青森県手をつなぐ育成会
難病	青森県難病団体連絡協議会	障がい	自立生活センターPingあおもり
重症心身	青森県重症心身障害児(者)を守る会	介護施設	青森県老人福祉協会
医ケア	けっぱれ 和and医ケアっ子	介護	青森県介護福祉士会
高齢者	青森県シニアクラブ連合会	社会福祉	青森県社会福祉士会
子育て	NPO法人子育て応援隊ココネット		

基本設計段階での取組方針

- 以下の検証テーマについて、全3回のワークショップを実施。

移動・動線	・ 外部から内部への経路（段差解消、屋根設置） ・ 歩行者と車両の分離等の安全性 ・ EVのサイズ（大型対応）・台数・配置、自動ドアの仕様
機能・設備	【トイレ】機能分散、オストメイト、乳幼児対応 【待合・診察】車椅子回転スペース、椅子の高さ・形状 【駐車場】身障者用エリアの配置・乗降幅
情報・その他	【サイン】ピクトグラム、文字サイズ、色覚配慮 【DX活用】デジタルサイネージ、視覚障がい者用音声案内等 【災害時】避難計画、警報の可視化

【みんなでつくる 新しい 病院】

第1回 ワークショップの ほうこく

新しい病院をもっと使いやすくするために
みんなで「見学会」と「話し合い」をしました。

1. いつ・どこで

いつ： 2026年 5月23日（土曜日）

時間（じかん）：

■ **みなさん：** 午後 1時30分 から 3時30分 まで

■ **ろうあ協会の人：** 午後 2時 から 4時 まで

どこで： 青森市民病院（あおもり しみんびょういん）

2. 第1回ワークショップのスケジュール



① はじめの会

30分

(きょうの説明)



② 見てまわる

60分

(病院の中を歩く)



③ 感想を話す

30分

(意見の交換)

① はじめの会 （30分）

場所（ばしょ）：

3階 大会議室（ろうあ協会の人は1階 講堂）

やったこと：

- 今日の進め方（すすめかた）を確認（かくにん）しました。
- 東京大学（とうきょうだいがく）の松田先生から、ワークショップのだいじなポイントを聞きました。

② 病院を見てまわろう（60分）

やったこと：

4つのチームで病院を見てまわりました。「使いにくい所（ところ）」がないかさがしました。

見た所：

- 1階： 入り口、駐車場、受付、診察室
- 2階： エレベーター、トイレ、コンビニ
- 3階： 入院する 部屋、お風呂

3. ワークショップの様子①

全体説明 (A～C班)



全体説明 (D班) ※すべて手話通訳により実施



来院者駐車場の見学

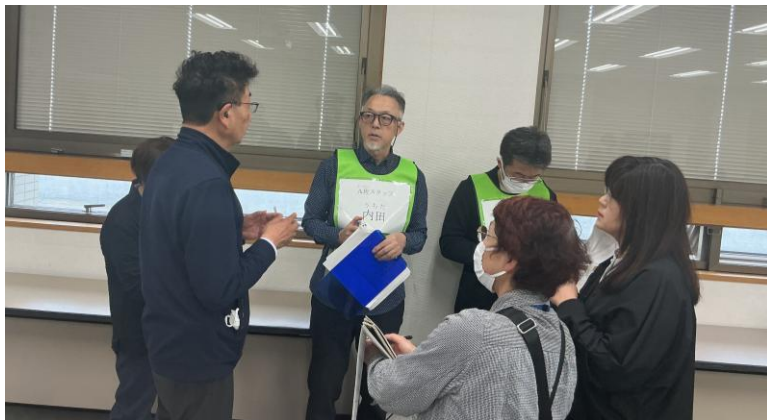


参加者と松田先生の対話



3. ワークショップの様子②

参加者と設計者の対話 (A班)



参加者と設計者の対話 (B班)



受付の見学 (C班)



参加者と設計者の対話 (D班)



【みんなでつくる 新しい 病院】

第2回 ワークショップの ほうこく

前回の 見学会で 気づいた ことを、
写真や 図面を 見ながら みんなで 話し合い、
意見を まとめました。

1. いつ・どこで

いつ： R8（2026）年 6月23日（土曜日）

時間（じかん）：

■ **みなさん：** 午後 1時 から 3時 まで

■ **ろうあ協会の人：** 午後 3時 から 5時 まで

どこで： 青森市民病院（あおもり しみんびょういん）

2. 第2回 ワークショップの スケジュール



① 発表

60分



② 話し合い

45分



③ 次回の 準備

15分

① 発表（はっぴょう）（60分）

やったこと：

- 前回の 見学会で「使いにくい」と思ったことや、「こうしてほしい」と思ったことを発表しました。
- 発表は、見学した 場所を 4つの グループに分けて行いました。

② 話し合い（45分）

やったこと：

■病院の写真や図面（ずめん）を見ながら、「どうすればもっと良くなるか」をみんなで考えました。

③ 次回の準備（15分）

やったこと：

- 次回のワークショップで、実際（じっさい）に触って（さわって）みたいものや、大きさを確かめたい箇所（かしょ）を決めました。

3. ワークショップの様子

全体説明 (A～C班) ※説明は同時文字通訳も実施



全体説明 (D班) ※すべて手話通訳により実施



参加者との対話 (A～C班)



参加者との対話 (D班)



【みんなでつくる 新しい 病院】

第3回 ワークショップの ほうこく

これまでの意見をまとめ、
新しい病院の「設計（せつけい）の計画」を
みんなで話し合いました。

1. いつ・どこで

いつ：2026年 7月18日（土曜日）

時間（じかん）：

■ **みなさん：**午後 1時から 3時まで

■ **ろうあ協会の人：**午後 3時から 5時まで

どこで：青森市民病院（あおもり しみんびょういん）

2. 第3回 ワークショップの スケジュール



① 計画の説明

病院を こう
作る



② 話し合い

意見の
交換



③ まとめ

先生からの
お話



④ 確認

触って
確かめる

① 計画（けいかく）の説明

やったこと：

- みんなの意見を受けて、「病院をこういう風に作ります」という計画（方針案：ほうしんあん）をスタッフから説明しました。

説明した6つのこと：

- ①情報の見える化 / ②雪国対策 / ③トイレの工夫 / ④心を落ち着かせる部屋 / ⑤居心地のよい病室 / ⑥災害時の避難

② 話し合い & ③ まとめ

② 話し合い：

■計画の説明を聞いて、どう思ったかをみんなで話し合いました。

③ 先生からのまとめ（総括）：

■東京大学（とうきょう だいがく）の松田先生から、ワークショップ全体のまとめとアドバイスをいただきました。

④ 大きさ や サンプルの 確認（かくにん）

場所（ばしょ）：1階 中央待合ホール

やったこと：

- トイレ や エレベーターの 大きさを 確かめました。
- 床の 材料、トイレの 自動ドアの ボタン、手すりなどを、
実際（じっさい）に見て、触って（さわって） 確かめました。

3. ワークショップの様子①

全体説明 (A～C班) ※説明は同時文字通訳も実施



全体説明 (D班) ※すべて手話通訳により実施



参加者からの意見



参加者との対話



3. ワークショップの様子②

松田先生からのアドバイス



点状ブロックの段差確認



バリアフリースイレ・エレベーターの大きさ確認



付添ソファの使い勝手確認



【基本設計段階】

ワークショップで取りまとめたこと

①情報（じょうほう）の見える化

💬 困ること

耳が聞こえにくい人に、名前の呼び出しや、火事・地震のニュース、看護師さんと呼ぶ音が伝わりにくい。

💡 工夫すること

声や音だけでなく、「画面（モニター）」「文字」
「光」を使って、目で見てもわかるように伝えます。

②雪国（ゆきぐに） 対策の動線

困ること

駐車場や入り口で、雪や風が強かったり、暗くて滑りやすかったり、段差があって危ない。

工夫すること

立体駐車場から病院棟に歩いていける「連絡通路（れんらくつうろ）」や、屋根付きの車の乗り降り場（車寄せ）を作ります。

③ トイレの工夫（使いやすさの分散）

困ること

多目的トイレに機能が集中し、オストメイト・オムツ交換・介助利用が重なる

工夫すること

「車いす用のトイレ」「おむつを替えるトイレ」「お腹に袋をつけている人（オストメイト）のトイレ」など、目的ごとにトイレの場所を分けて作り、並ばずに使えるようにします。

④心を落ち着かせる部屋

困ること

自閉症（じへいしょう）や発達障がい（はったつしょうがい）の人が、混んでいる場所や、大きな音、たくさんの視線（しせん）で不安になってしまう。

工夫すること

静かに待つことができる専用の部屋（カームダウンルーム）を作ります。音が響かない壁や、落ち着く色の部屋にします。

⑤ 居心地（いごこち）のよい病室

💬 困ること

入院する部屋（病室）の明るさ、荷物を置く場所、家族が泊まるときのベッド（ソファ）、車いすが動くスペースが足りない。

💡 工夫すること

明るく気持ちいい部屋にします。車いすでも動きやすくし、家族が使う道具も準備します。

⑥災害（さいがい）が起きたときの避難（ひなん）

💬 困ること

地震や火事の時、エレベーターが止まったら車いすの人はどうやって逃げればいいのか？

💡工夫すること

災害が起きたときのために、電気が止まっても動くエレベーターをたくさん準備するほか、車いすのまま隣の駐車場（ちゅうしゃじょう）へ逃げられる通路などを作ります。

今後のスケジュール

- 10月頃 基本設計図書をHP等で公表（当事者意見を反映）
- 令和9年度以降は実施設計、施工段階で適宜開催